

『至元譯語』校異

竹越 孝

1. はじめに

類書『事林廣記』に収められる『至元譯語』、一名『蒙古譯語』は、中国語とモンゴル語の対訳語彙集としては最古のものとされている。現存する『事林廣記』のテキストのうち、元泰定乙丑年(泰定2年;1325)刊本を翻刻した元禄12年(1699)の和刻本『新編羣書類要事林廣記』庚集卷十に収められるもののみが『至元譯語』と題し、他の諸本では『蒙古譯語』と題する。同篇では全541語を22の部門に分け、大字で漢語語彙を掲げたのち小字双行で漢字音写モンゴル語を付すという体裁を取っている。

管見の限り、『至元譯語』の校定本としては石田幹之助(1934;以下石田本)と長田夏樹(1953;以下長田本)の二種類がある。石田本は東洋文庫蔵の元禄12年京都中野五郎左衛門・今井七郎兵衛刊本を底本とし、内閣文庫蔵の元至順間(1330-1333)刊本『新編纂圖増類羣書類要事林廣記』所収の『蒙古譯語』(以下内閣本)との異同を校記の形で付している。また、長田本は神戸市外国語大学蔵の元禄12年京都中野五郎左衛門・山岡市兵衛刊本を底本とし(刊記が異なるのみで内容は同一という)、石田本とその校記を参照して新たに校訂を加えるとともに、推定される漢字の音価と蒙古文語形、及び甲種本『華夷譯語』や『元朝秘史』に在証される形を付している。

両者はともに我々が『至元譯語』によって中世モンゴル語を考える際の出発点となる重要な著作であるが、細かい点では種々の相違が見られる。そこで本稿では、和刻本と二種の校本の間に見られる異同を一覧の形で示し、同学の参考に資することにした。以下、和刻本は長澤規矩也(1976)所収の中野・今井刊本により、また石田本・長田本はいずれも雑誌掲載時のものではなく単行本に収められた形のもの(石田幹之助1973及び長田夏樹2000)を用いる。

2. 部門名

まず、部門名の異同を挙げておく。和刻本の本文における22の部門名とその配列は以下の通りである:

- (1) 天文門;
- (2) 地理門;
- (3) 人事門;
- (4) 鞍馬門;
- (5) 器門;
- (6) 五穀門;
- (7) 飲食門;
- (8) 身體門;
- (9) 衣服門;
- (10) 器物門;
- (11) 文字門;
- (12) 珍寶門;
- (13) 飛禽門;
- (14) 走獸門;
- (15) 虫魚門;
- (16) 草木門;
- (17) 菜菓門;
- (18) 數目門;
- (19) 時令門;
- (20) 方隅門;
- (21) 君官門;
- (22) 顔色

門。

これに対し、和刻本庚集の目録（篇名を『至元驛語』に誤る）に見られる記載では次のようになっている。便宜的に上と同じ番号を用いて示す：

(0) 序畧；(1) 天文；(2) 地理；(19) 時令；(3) 人事；(21) 軍官；(4) 鞍馬；(5) 軍器；(6) 五穀；(7) 飲食；(8) 身體；(9) 衣物；(10) 器物；(11) 文字；(12) 珍寶；(13) 飛禽；(14) 走獸；(15) 蟲魚；(16) 草木；(17) 菜菓；(18) 數目；(20) 方隅；(22) 顔色。

上によると、(19) と (21) の配列が異なるほか、(5)、(9)、(21) で部門名が相違している。石田本は (5) を内閣本によって「軍器門」とし、他は本文の部門名を踏襲しているが、長田本では内容から見て (5) は「軍器門」、(21) は「軍官門」が正しいとして目録の部門名を採用し、またその配列順序も「天文、地理、時令…」は甲・乙種本『華夷譯語』や『北虜譯語』とも共通する形であるから、(9) を「衣物」に誤る以外は目録の記載が本来の形を示している可能性が高いとする。なお、内閣本の本文における配列は (1)、(2)、(3)、(21)、(4)、(5) …の順であるという（石田本校記による）。

3. 漢語語彙

漢語語彙の部分における異同を表1に掲げる。石田本では 541 の語彙に通し番号を付しており、長田本においても同一の番号を用いている。表では語彙番号ごとに和刻本、石田本、長田本の記載を挙げ、備考欄には和刻本の字を削除している場合は「刪」、補っている場合は「補」、改めている場合は「訂」、誤りと考えられる場合は「誤」として二本の校訂状況を記す。また、それぞれの校記において校訂したことが示されている場合は右肩に「*」の記号を付す。なお、石田本は和刻本に基づき同字省略符号「々」を用い、長田本では前の字を繰り返しているが、その異同については問題としない。外字は { } の中に字の構成要素を示すこととし、各要素の左右関係は「+」、上下関係は「/」、包含関係は「<」で表す。

表1

No.	和刻本	石田本	長田本	備考
1	天日	天	天日	石田刪*
2	日日	日	日日	石田刪*
3	月日	月	月日	石田刪*
5	星日	星	星日	石田刪*
8	風日	風	風日	石田刪*
9	雲日	雲	雲日	石田刪*

10	雨曰	雨	雨曰	石田刪*
11	雪曰	雪	雪曰	石田刪*
12	雷曰	雷	雷曰	石田刪*
13	電曰	電	電曰	石田刪*
14	雹曰	雹	雹曰	石田刪*
15	地曰	地	地曰	石田刪*
16	山曰	山	山曰	石田刪*
17	嶺曰	嶺	嶺曰	石田刪*
18	水曰	水	水曰	石田刪*
19	泉曰	泉	泉曰	石田刪*
21	海曰	海	海曰	石田刪*
22	江曰	江	江曰	石田刪*
23	河曰	河	河曰	石田刪*
24	澗曰	澗	澗曰	石田刪*
25	井曰	井	井曰	石田刪*
26	冰曰	冰	冰曰	石田刪*
28	沙曰	沙	沙曰	石田刪*
29	橋曰	橋	橋曰	石田刪*
30	城曰	城	城曰	石田刪*
31	村曰	村	村曰	石田刪*
32	墻曰	墻	墻曰	石田刪*
34	塔曰	塔	塔曰	石田刪*
37	夫人	大人	大人	石田訂*、長田訂
40	佛曰	佛	佛曰	石田刪*
97	馬名	馬	馬名	石田刪*
101	躡行	躡行	躡行	石田訂？
147	撲頭	樸頭	樸頭	石田訂？長田訂？
148	{木+云/木}	{木+云/木}	樸	長田訂*
180	大撲頭	大樸頭	大樸頭	長田訂？
341	鵠{台+鳥}	鵠鵠	鵠鵠	石田訂、長田訂
356	羯{羊+广<須}羊	羯{羊+广<須}羊	羯{羊+歷}羊	長田訂
406	蒲萄	蒲萄	葡萄	長田訂？
444	前月	前月	每月	長田誤
485	下	下馱	下	石田誤
520	把門人	把門人	把門的	長田誤

上表で特に目立つのは、石田本が 1-40 のうち 29 語に付された「曰」、97 に付された「名」を削除することであり、内閣本に従ってこれを削除した旨校記に言及がある。「曰」が付されない 4、6、7、20、27、33、35、36、37、38、39 はいずれも二音節語であり、『至元譯語』の編纂当初には単音節語に「曰」を付するという方針があったものと思われる。これは本篇の直前に収められる『綺語門』（他の諸本では『綺談市語』）のスタイルを踏襲しようとしたものであろう。

また、石田本の校記によると 37 は内閣本によって改めたといい、長田本では 148 を「櫟」の俗字としている。

4. 漢字音写モンゴル語

漢字音写モンゴル語の部分における異同を表 2 に掲げる。石田本では字や記号を補う場合と比定に疑問がある場合に〔 〕を付し、長田本では補う場合に〔 〕、削除すべき場合に（ ）の記号を用いている。なお、石田本における「□」の記号は必ずしも脱字または虫損を意味するものではなく、「如何なる字か解し得ない異様の文字を姑くこの符を以て示したもの」であるという。また、和刻本に見られる「ー」等の記号について、石田本では原則としてこれを省くが、「前出の文字の繰返しを避けるための時は之を存した」といい、表ではこの記号についても異同として扱っている。

表2

No.	和刻本	石田本	長田本	備考
6	朶樂阿不干	朶樂阿不干〔?〕	朶樂阿不干	石田訂、長田訂*
12	蕩郭都――	蕩郭都	蕩郭都	石田刪、長田刪
21	苔来	苔來	苔来	石田訂、長田訂*
24	双刺	双刺	奴刺	長田訂
31	信{囚/人}	信奥	信典	長田訂*
37	也可空	也可罕	也可空	石田訂?
45	霍垂直――	霍亞直	霍垂直	石田刪、長田刪
46	續木直――	續木直	続木直	石田刪、長田刪
48	勘直――	勘直	勘直	石田刪、長田刪
49	{人+高}秃速――	{人+高}秃速	{人+高}秃速	石田刪、長田刪
50	細>直哥――	細々直哥	細細哥直	石田刪、長田刪訂
51	木都直――	木都直	木都直	石田刪、長田刪
52	蒙古――	蒙古	蒙古〔直〕	石田刪*、長田補
53	三直――	三直	三直	石田刪、長田刪

54	咒直一一	呪直	呪直	石田刪、長田刪
55	不都直一一	不都直	不都直	石田刪、長田刪
57	忒可速一一	忒可速	忒可速	石田刪、長田刪
58	五花直一	五花直	五花直	石田刪、長田刪
59	忒未直一	忒未直	忒木〔兒〕直	石田刪、長田訂補
60	兀刺直一一	兀刺直	兀刺直	石田刪、長田刪
65	托忽歹	托忽歹	扎忽歹	長田訂*
67	幹脫赤	幹脫赤	幹脫赤	長田訂
68	大魯直	火魯直	火魯直	石田訂*、長田訂*
70	豹立直	納立直	豹立直	石田訂？
74	阿不十	阿不干	阿不干	石田訂、長田訂
79	{彳+育+乚}	口	胤	長田訂
80	阿赤可	阿赤可	阿赤口	長田訂
82	王也	王也	玉也	長田訂
89	阿母千	阿母干	阿母干	石田訂、長田訂*
95	別里千	別里干	別里干	石田訂、長田訂*
97	木罕	木里	木里	石田訂*、長田訂
98	阿急荅	阿忽荅	阿忽荅	石田訂、長田訂
102	卜羅一一	卜羅一一	卜羅木里	長田補
103	折兒及一一	折兒及一一	折兒歹一一	長田訂*
105	荅罕	荅罕〔一一〕	荅罕	石田補
107	法英兒一一	法英兒一一	怯魚兒一一	長田訂*
110	迭里罕	迭里罕〔一一〕	迭里罕	石田補
111	只令兒	只令兒	只合兒	長田訂*
113	疋刺一一	疋刺一一	兀刺	長田訂刪
115	印丑一一	印〔即？〕丑一一	印丑	石田補*、長田刪
116	胡闌一一	胡闌一一	胡闌	長田刪
117	奪速	奪速〔一一〕	奪速	石田補
119	荅空	荅罕	荅空	石田訂？
120	兀囊本里	兀囊木里	兀囊木里	石田訂*、長田訂
124	篤魯刺	篤魯刺	篤魯(刺)	長田刪
126	{宀/召}塔孫	{宀/召}荅孫	窩塔孫	石田訂？長田訂
133	五忽魯台	五忽魯合	五忽魯合	石田訂、長田訂*
143	忽林糸	忽林糸	忽林糸	長田訂
148	{木+云/木}不西	{木+云/木}不西	樸不西	長田訂*

154	扎忽刺速	札忽刺速	扎忽刺速	石田訂？
169	卓苦伏	卓苦伏六	桌苦伏六	石田補*、長田補
177	扎虎兒	札虎兒	扎虎兒	石田訂？
179	匣刺{月+害}	匣刺{月+害}	匣刺瞎	長田訂
180	脱和甲	脱和甲	和脱里	長田訂*
190	扎匣阿木	札匣阿木	扎匣阿木	石田訂？
191	秃丷是還	秃々兒還	秃秃兒還	石田訂、長田訂
192	亥	口亥	〔不〕歹	石田補、長田訂*
196	扎下不奴叉	札下不奴叉	扎下不奴叉	石田訂？
198	牙立	牙立	牙立〔百〕	長田補
213	合你四	合你四	合你四〔匣〕	長田補
214	尼孰	尼敦	尼敦	石田訂、長田訂*
216	阿蒲	阿滿	阿滿	石田訂、長田訂
218	智寬兒	智寬兒	智兒寬	長田訂
219	乞立干	乞立于	乞立干	石田訂？
220	佚留温	佚留温	迭留温	長田訂
230	{門<豕}>	{門<遂}>	闕闕	石田訂、長田訂
252	懷馬連	懷馬連	懷馬速	長田訂*
254	扎合	札合	扎合	石田訂？
255	細丷垓	細々垓	細細亥	長田訂
257	兀阿兒	兀阿兒	阿兀兒	長田訂
260	按彈迭	按彈迭兒	按彈迭兒	石田補*、長田補
262	忒里干	忒里于	忒里干	石田訂？
275	登及宿	登及宿	登歹宿	長田訂
276	滕{衤+鳥}兒	滕褐兒	滕鷓兒	石田訂、長田訂
283	{日+于}惡又	肝惡又	旺惡兒	石田訂、長田訂
284	合苔孫	合苔孫	合苔孫	長田訂*
289	{木+去}歹	{木+去}歹	怯歹	長田訂
301	肅都	雨都	雨都	石田訂*、長田訂
308	詐安伯敦	詐安伯敦	詐安宿敦	長田訂
310	粹哥	粹哥	粹哥	長田訂*
315	播羅福闌	播種羅福闌	播羅福闌	石田補？
316	可齒老温	可齒老温	可〔可〕齒老温	長田補
317	弋可速	弋可速	忒可速	長田訂
320	喝里{比/木}合	喝里柴〔?〕合	喝里柴合	石田訂、長田訂

321	扎罕束忽兒	札罕束忽兒	扎罕束忽兒	石田訂？
322	棄真古	棄眞古	棄兒古	長田訂
323	移{曷+兀}里鬼	移{曷+兀}里兒	移{曷+兀}里鬼	石田訂？
326	獨林及	獨林及	独林歹	長田訂*
329	胡七遏噯	胡七遏噯	胡土遏噯	長田訂
333	胥里迓	胥里迓	脅里迓	長田訂*
335	去重	去重	去曹	長田訂*
340	撒也察侮	撒也察侮	撒也察海	長田訂*
346	阿温蘭	阿温蘭	阿湿蘭	長田訂*
350	无哥兒	无哥兒	互哥兒	長田訂*
351	七渾	土渾	土渾	石田訂*、長田訂*
356	薛里哥	薛里	薛里哥	石田刪？
357	兒哥	一兒哥	一兒哥	石田補*、長田補
359	麦耳臭？	麥怯眞	麦怯眞	石田訂、長田訂
362	哥羅千	哥羅千	哥羅干	長田訂*
369	沒至	沒至	沒亥	長田訂*
372	魯里百哥	魯里百哥	黑里百哥	長田訂*
373	温婁渴眞	温婁渴眞	湿婁渴眞	長田訂*
375	愛石速	愛石速	愛百速	長田訂*
376	課乙愛百速	課乙愛百速	課課愛百速	長田訂
382	干掣立	于掣立	干掣立	石田訂？
388	古杳孫	古香孫	古杳孫	石田訂？
396	玉瓜兒	玉瓜兒	玉瓜兒	長田訂
397	{十+南}赤	□赤	南赤	長田訂
405	福孫反	福孫歹	福孫歹	石田訂、長田訂*
406	玉浸	玉浸	玉浸	石田訂*、長田訂*
408	合兒不西	合兒不西	合兒不四	長田訂*
409	赤匣	赤匣	赤〔不〕匣	長田補
410	亦干	尔干	你干	石田訂*、長田訂
411	舌腰兒	舌腰兒	活腰兒	長田訂
423	塔賓	荅賓	塔賓	石田訂？
427	也連	也速	也連	石田訂*
428	你干介	你干介	你干爪	長田訂*
445	向乃撒刺	阿〔？〕乃撒刺	阿乃撒刺	石田訂、長田訂*
448	胡打里玉宣貢撒>	胡打里玉宣眞撒々	胡打里玉官眞	石田訂、長田訂刪

449	兀年玉宣頁ㄅ一	兀年玉宣眞一一	兀年玉官眞	石田訂、長田訂刪
450	{言+里}可ㄅ	{言+里}可々一一	課可	長田訂刪
451	胡打兒ㄅ	胡打兒一一	胡打兒	長田刪
452	納智兒ㄅㄅ	納智兒一一	納智兒	長田刪
453	兀懶ㄅㄅ	兀懶一一	兀懶	長田刪
454	補工ㄅ	補工一一	補工	長田刪
455	忽察苔里必ㄅㄅ	忽察苔里必一一	忽察苔里必	長田刪
456	{才+去}斂都兒ㄅㄅ	{才+去}斂都兒一一	怯斂都兒	長田訂刪*
457	亦{曷+司}古ㄅㄅ	亦{曷+司}古一一	亦{曷+司}〔里〕古	長田補刪
458	庫胡列兒ㄅㄅ	庫胡列一一	庫胡列兒	石田刪?長田刪
459	兀里歹干都兒	兀里歹于都兒	兀里歹兀都兒	石田訂?長田訂
460	合赤土兀都兒	合赤土兀都兒	合赤干兀都兒	長田訂
461	阿乃一都兒	阿乃于都兒	阿乃兀都兒	石田訂*、長田訂
463	懷■兀都兒	懷赤兀都兒	懷赤兀都兒	石田訂、長田訂
464	赤納只兀都兒	布納只兀都兒	赤納只兀都兒	石田訂?
465	兀都不離	兀都不離	兀都兒不離	長田補
469	兀都篤甲	兀都兒篤里	兀都兒篤里	石田補*、長田訂*
470	{彳+區}荅	{彳+區}荅	{人+區}荅	長田訂
473	粟你篤甲	粟你篤里	粟你篤里	石田訂、長田訂*
474	你于豁納	你干瞎納	你干豁納	石田訂、長田訂*
476	愛乃愛哈折拿	愛乃愛哈折拿	愛乃愛哈折拿	長田訂
477	耶兒荅乞	耶兒荅乞	耶兒荅乞	石田訂、長田訂
484	送刺	送刺	迭刺	長田訂*
491	若匿号噴	若匿号噴	昔匿号眞	長田訂*
492	度扎刺	度札刺	度托刺	石田訂?長田訂*
500	四{木+蒜}利竹	四□利竹	擺利竹	長田訂
510	明按那延	明安那延	明安那延	石田訂、長田訂
511	瓜赤延	瓜赤那延	瓜那延	石田補、長田訂
514	益千立	益千疋	益立干	石田訂、長田訂*
520	匣{口+兒}匣赤	匣兒匣赤	匣{口+兒}匣赤	石田訂?
522	或箇赤	或箇赤	或箇〔兒〕赤	長田補
535	皆刺	昔刺	昔刺	石田訂、長田訂
537	匣神	匣刺	匣刺	石田訂*、長田訂
538	口亨	只亨	只亨	石田訂*、長田訂
541	窩	□窩	口窩	石田補、長田補

石田本の校記によると、115、120、169、260、301、357、461、469、537、538 はいずれも内閣本に基づき改めたものであるという。また長田本では80及び397において石田本の校記に見られる内閣本の記述を採用している他は、転写模刻の際に生じた字形の類似による誤り、または読み誤りとしてそのリストを付している。

5. おわりに

以上に挙げた異同のうち、内閣本に依拠していないものは、基本的に二人の校訂者が意をもって改めた部分ということになる（ミスプリントも当然あろうが）。見たところ、その「意」は、専ら中世モンゴル語の側から語形を推定している長田本の方が強いように思われる。

中華書局（1999）によって『事林廣記』の和刻本が中国で影印刊行されるまで、『至元譯語』を利用し得る立場にあったのは日本人のみであり、『事林廣記』の諸刊本を最も多く所蔵するのもまた日本である（森田憲司 1993 参照）。その意味では、日本の研究者が同篇の最も精度の高いクリティカル・エディションを作る役割を担っていると言える。本稿がその一助となれば幸いである。

<参考文献>

- 石田幹之助（1934）『『至元譯語』に就いて』石田幹之助・石浜純太郎編『東洋学叢編』1：1-26. 東京：刀江書院；石田幹之助（1973）『東亞文化史叢考』：87-111. 東京：東洋文庫（東洋文庫論叢 54）.
- 長田夏樹（1953）「元代の中・蒙對譯語彙『至元譯語』」『神戸外大論叢』4-2/3：91-118；長田夏樹（2000）『長田夏樹論述集』上：15-64. 京都：ナカニシヤ出版.
- 中華書局（1999）『事林廣記』北京：中華書局.
- 長澤規矩也（1976）『和刻本類書集成』第1輯. 東京：汲古書院.
- 森田憲司（1993）『『事林廣記』の諸版本について—国内所蔵の諸本を中心に—』『宋代の知識人—思想・制度・地域社会—』：287-316. 東京：汲古書院（宋代史研究会研究報告 4）.